

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	692700016
法人名	社会福祉法人いいで福祉会
事業所名	グループホームひめさゆり荘2号館
訪問調査日	平成 20 年 11 月 25 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 7 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	692700016		
法人名	社会福祉法人いいで福祉会		
事業所名	グループホームひめさゆり荘2号館		
所在地 (電話番号)	山形県西置賜郡飯豊町大字樫3642番地	(電話)	0238-86-2286
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年11月25日	評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成	19年	4月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤	人, 常勤換算 6.5 人

(2) 建物概要

建物形態	併設／○単独	新築／○改築
建物構造	鉄骨 造り 平屋建て	
	階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.3 歳	最低	69 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	飯豊町国民健康保険診療所
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは公共施設が立ち並ぶ一角に位置しているため、お祭りや催し物が開催される町民センター、公民館、図書館等にも出かけやすく、地域の方々との交流が活発に行われています。利用者一人ひとりが「今の暮らし」をできるだけ長く続けられるように、元診療所を改築した長い廊下を残存機能維持に活かす取り組み、車椅子でも生活できるようホームの設備を整える取り組み、また、その人らしさを失うことなく、笑顔で過ごせるよう、利用者それぞれの思いを受け止める取り組みなどが、運営者、管理者、職員の協力のもとに進められています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題であった「夜間の災害発生を想定した対策」については、運営者および管理者がその必要性を認識しており、隣接施設の警備員への協力依頼や訓練内容の検討が行われている。現在までの取り組みを継続し、夜間の災害発生を想定した訓練等の具体化や実行を引き続き期待したい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価の意義について管理者から職員に説明されており、職員の理解が得られている。また、全職員で自己評価を実施することを通して、改善に取り組まれている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>8月に1回目の運営推進会議を開催し、施設説明や運営会議の設置目的の説明等が話し合われた。また、会議後に利用者との昼食会を行い、メンバーにホームの様子を見てもらいながら今後につなげる取り組みを行っている。(2回目は今回の評価後の予定)</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族から寄せられた意見について、話し合いや記録に残すことが行われており、職員間の意見の食い違いが生じないように気をつけて、ホームの運営にも反映させている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>公民館や町民センター行事(夏祭りや門松づくり等)に地域の方と一緒に参加しており、また、近所の方と一緒に草むしりをしたり、散歩の際に声を掛け合ったりしながら、日常的にも交流が図られるようにしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で目標として何が出来るか、また、自分がしてほしいこと等を話し合い、「2号館」独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のスタッフ会議で利用者への対応についての振り返りの時間を設け、実際的な場面を交えながら理念の確認を行い、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館や町民センター行事(夏祭りや門松づくり等)に地域の方と一緒に参加しており、また、近所の方と一緒に草むしりをしたり、散歩の際に声を掛け合ったりしながら、日常的にも交流が図られるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義について管理者から職員に説明されており、職員の理解が得られている。また、全職員で自己評価を実施することを通して、改善に取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8月に1回目の運営推進会議を開催し、施設説明や運営会議の設置目的の説明等が話し合われた。また、会議後に利用者との昼食会を行い、メンバーにホームの様子を見てもらいながら今後につなげる取り組みを行っている。(2回目は今回の評価後の予定)		

山形県 グループホームひめさゆり荘2号館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>制度の不明な点や確認事項について、管理者は役場に出向いたり、電話等で問い合わせを行い、相互に連携を図るようにしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当職員が手紙や写真で利用者の近況を個別に伝え、状態変化時は電話で連絡している。金銭については基本的に預かっていないが行事等で必要なときには連絡し、面会時に預かるようにしている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族から寄せられた意見について、話し合いや記録に残すことが行われており、職員間の意見の食い違いが生じないように気をつけて、ホームの運営にも反映させている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>現在のところ職員の異動は行われていないが、職員の異動がある場合には、事前に利用者や家族に連絡したいと考えている。また、新任職員がいる場合は、利用者への紹介と家族への連絡を行うようにしたいと考えている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修委員会で立てた年間計画に基づき、2ヶ月毎に研修会を実施している。また、外部研修の報告会や資料配布により、職員間の情報共有を図っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は定期的に行われる置賜地区グループホーム連絡協議会に出席しており、情報交換や交流を通じたサービス向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との暮らしを通して、話したり笑ったりする時間を共有することを大切にしており、一人ひとりの利用者の思いを感じ取りながら、学んだり支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から希望が出されることが少ないため、家族にも確認したり、生活の中で喜んでもらったことを記録に残して把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の会議等で職員が意見を出し合い、また、利用者や家族の意見を聞いて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しが行われており、また、状態に変化があったときには、現状に即した計画を作成するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	かかりつけ医に関する家族や利用者の希望を確認して おり、状況によって訪問診療を受けることもできる。ま た、受診には情報共有のため家族に付き添ってもらうよ うにしているが、必要に応じて医療機関にファックスで 情報提供を行い、適切な医療が受けられるように支援 している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	サービス利用契約時に重度化や終末期の話し合いを 行い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	その人にあった声がけ、尊厳を大切にした対応を心が けており、スタッフ会議で対応の振り返りがなされてい る。また、記録等はスタッフルームに保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課は決めず、利用者が自己決定をできるよう声 がけを行いながら、草むしりや散歩、畑仕事、読書等、 本人のペースで過ごせるよう支援している。		

山形県 グループホームひめさゆり荘2号館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が好む麺や丼物などの特別メニュー、誕生会や行事の際の手作りケーキや弁当、外食など、食事が楽しみになるよう支援されている。また、もやしの根を取る、茶碗やテーブルを拭くなど、一人ひとりの力を活かして食事の準備や後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望をその日の朝に聞き、希望者が全員入浴できるよう支援しており、近くの足湯に出かけるといった楽しみも取り入れられている。また、入浴を拒否される方にはタイミングを見ながら声がけを行い、最低でも週2回は入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみ、掃除、洗い物など、一人ひとりの力を活かす場面があり、また、裁縫道具や毛糸が居室や食堂に置かれ、好きなときにできるようになっている。また、季節ごとのドライブに家族と一緒に出かけられることも行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの図書館に本を借りに出かけたり、保育園で遊ぶ子供達を見てくるなど、外出する機会を設けている。また、冬期間でも、ドライブや買い物などの機会を確保し、できるだけ利用者の希望を取り入れるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	全ての職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、常に職員同士が声をかけあいながら、利用者が安全に過ごせるよう見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	公共施設防災協議会に入っており、地域住民や消防署とも協力し、地震や火災を想定した訓練が2回行われている。また、前回の改善課題であった「夜間の災害発生を想定した対策」については、運営者および管理者がその必要性を認識しており、隣接施設の警備員への協力依頼や訓練内容の検討が行われている。	○	現在までの取り組みを継続し、夜間の災害発生を想定した訓練等の具体化や実行を引き続き期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取が職員間で確認されており、摂取量が少ないときにはチェック表にも記載しながら、様子の観察が行われている。また、一人ひとりの状態に合わせた食事が提供されており、できるだけ自分で食べられるよう工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	柿や花の折り紙、手作りのリースが居間に飾られ、季節や和やかさを感じながら居心地よく過ごせるように配慮されている。また、床暖房のために素足でも過ごせることにより、足が滑って転ぶ転倒が少なくなった状況も見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には小物を入れる引き出しや家族の手作りアルバム、写真、折り紙等の作品が並べられ、趣味の毛糸も準備されている。また、荷物を持ち込むことにより、「いつまでもここに居なければならぬのか」等、かえって不安になる利用者の中には、無理強いすることなく、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるようにしている。		